冷静さが守る人権

二見中学校三年　青木　紬衣

現在のインターネットでは、誰もが瞬時に情報を拡散し、自分の意見を発信できる便利な道具として社会に定着していますが、一度誰かの過ちや不祥事が話題になると、集団で批判し、社会的・精神的に追い詰める風潮が強まっています。本人の特定や個人に対する過剰な批判が、正当な批判のように溢れています。本来は過ちを正し、問題を解決するべきですが、いつの間にか個人を攻撃する投稿が目立ってきているのが、今のインターネットの深刻な現状だと感じます。

なぜ、インターネット上で攻撃的な投稿が増えてしまうのでしょうか。大きな原因は、ネットの匿名性と、「自分は正しい」という思い込みにあると思います。世間から「悪者」とされた相手に対して、「正当な理由がある」から、相手の人格まで否定するような暴力的な批判をしても良い」と勘違いしている人が

増えていると感じます。さらに、ネットの匿名性により、安全圏から言葉をかけられる環境が罪悪感をなくしてしまい、よりエスカレートするのだと思います。

この問題の恐ろしさは、誰もが「気付かぬうちに加害者になってしまう可能性」があることです。「悪いことをしたのだから当然」という思い込みや、「みんなが言っているから」という同調圧力によって、罪悪感を持たないまま過剰な批判に加担してしまう可能性があります。自分では「正しいこと」をしているつもりでも、その言葉が集まることで一人の人間の心を追い詰める凶器となり、無意識のうちに人権を侵害する側に立ってしまう恐れがあります。

このような事態を防ぎ、自分が加害者にならないためには、「冷静さ」を保つことが何よりも重要だと考えます。ネットで過激な投稿や衝撃的なニュースを目にして、感情を揺さぶられたときこそ、すぐに反応するのではなく、一度立ち止まって深呼吸をしてみましょう。

なく、一呼吸置くことが必要だと思います。

投稿する前に、「この発言は過ちを正すためのの批判なのか、攻撃的な批判なのか」と立ち止まり、考えることが大切だと思います。

さらに、過剰な批判に惑わされないために は、「さまざまな視点を取り入れること」も必要だと思います。ネット上では、偏った意見ばかりが目立ち、それが世の中の全ての意見であるかのように錯覚してしまうことがあります。そんなときに反対側の意見やその背景にも目を向け、物事を客観視する姿勢を持つことが、感情に振り回されない心の余裕につながると感じます。

インターネットは、世界中の人とつながり、学びを深めることができる素晴らしい道具です。しかし使い方を誤れば、集団で特定の人を追い詰める凶器にもなってしまいます。つまり、誰もが気付かぬ間に加害者になるリスクを抱えています。

だからこそ、どんなニュースに触れたとき

でも感情に流されず、常に客観的に物事を判断できる冷静さを大切にしていきたいです。

20 × 20